

泉の森 なんでも情報館

2015年 春号(No.17)
発行 しらかしのいえボランティア協議会
エリアマップ作成班

泉の森・ふれあいの森の 春の花暦・鳥暦(4~6月)

待ちわびた春がやってきました。大和市スポーツ・よか・みどり財団のホームページ ”やまとナビ”(http://www.yamato-zaidan.or.jp/)の“季節の花情報”には、折々の開花情報のお知らせがあります。去年の情報をマップ化しましたので、鳥の声を聞きながら、あちこち お花探しのお散歩を楽しんで下さい。



*2014-4-1 サクラ

桜は日本人の心と深く繋がっています。その美意識の底流を想いながら味わってみてはいかがでしょうか？(p.4)



*2014-4-2 タチツボスミレ



*2014-4-2 ニリンソウ



*2014-4-2 ヤマブキソウ
(見頃は4月半ば)



2014-4-15 フジ



2014-4-19 カスミザクラ
(満開)



*2014-5-23 キツリフネ(咲き始め)



*2014-6-7 アジサイ(咲き始め)



*2014-5-9 ニワゼキショウ



*2014-4-17 タンポポと綿毛



*2014-6-19 ネジバナ

道端や原っぱに咲く花もいろいろ。花を使った春遊びを子供達にも教えたいものですね。(p.6)

*印の付いた日付は、撮影日を表しています(他はホームページ掲載日付)。今年、昨年より早く咲くのか遅いのか、較べてみて下さい。ここに載せた写真は泉の森・ふれあいの森に咲く花のごく一部です。ホームページ情報も見ながら、折々の花を楽しんで下さい。

花だけでなく、鳥見も楽しいものです。次ページには、泉の森・ふれあいの森の鳥さん達を紹介します。

2014-4-22 シバザクラとハナミズキ



2014-5-28 ラベンダー



2014-5-28 カモミール



2014-5-2 ボタン



2014-6-20 バラ



2014-5-28 バラ(大花壇)



2014-6-20 バラ



*2014-5-3 アヤメ
(咲き始め)



*2014-6-13 ハナショウブ



*2014-6-14 クマノミズキ



*2014-6-14 ハンゲショウ



*2014-5-22 エゴノキ

山野草園には、ほかにも可愛らしい花がいろいろありますよ。(p.5)



ふるさとは 泉の森

春から初夏にかけて、泉の森、ふれあいの森とその周辺で巣を作り、ヒナを育てる鳥たちをご紹介します。このエリアを“ふるさと”とする子供たちが、今年もたくさん育つでしょう。暖かく見守ってくださいね。

水辺では…



バン



カイツブリ



カワセミ



カルガモ

左側の4種(水辺の鳥)は、おもに「しらかしの池」や引地川沿いで見られます。右側の6種は、木の茂った環境のあちこちで見られます。巣造りや子育て中の観察には十分注意しましょう。

森では…



シジュウカラ



メジロ



エナガ



コゲラ



ヒヨドリ



ヤマガラ

写真提供(敬称略) カイツブリ…新井洸三 コゲラ…臼井英夫 エナガ…加塩弘巳 ヒヨドリ…金子精一 カルガモ、バン、カワセミ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ…西川勇 皆様、ありがとうございます。

春から夏の 鳥ごよみ

春…泉の森周辺で冬を過ごしたツグミやカモが、北国へ旅立つ頃。森の中に一步入れば、さえずりでいっぱい。「ツーピー、ツーピー」とシンプルな歌を繰り返すシジュウカラ。ヤマガラはのんびりと「ツツンピー、ツツンピー」。そのテンポは北島三郎『与作』の「♪ヘイヘイホー、ヘイヘイホー」を思い出させます。高音の複雑な歌はメジロ。キツツキの仲間のコゲラ、アオゲラは、木の幹を連続的に「トロロロ…」と叩いて自分をアピールします。みんな、必死の婚活中。エナガはすでにマイホームを構え、抱卵、子育てに入っています。その姿を見かけたら長い尾に注目。尾の先端が曲がっていることがあります。狭い巣の中で卵を抱いているために、クセがついてしまったのです。

ゴールデンウィーク。早起きして森を歩いていると、何やら聞きなれない美声が…日本で子育てをするために東南アジアなどから渡ってきた小鳥たちでしょう。彼らにとっては、泉の森は高速道路のサービスエリアのようなもの。長居はせずに旅立ってしまいます。姿も美しい彼らをひと目見よう、写真に撮ろうと追い回す人が多いのですが、長旅で疲れ果てています。録音された鳥の声を流して鳥を呼び寄せるのもNG。疲れた鳥にさらにストレスを与えてしまいます。美しい声を聞くだけでがまん、がまん。

水辺もにぎやかです。カイツブリは「ケレケレケレ…」と甲高い声で鳴きながら、水面を走るように追いかけて。やがて、草をくわえて行ったり来たり。巣作り開始です。ようやく出来た巣に卵を産むのですが、大雨で流されたりコイに壊されたり。コイはカイツブリの巣があるような水深の浅いところで産卵しますが、その際バタバタ暴れるので巣や卵が壊されます。蛇に卵を食べられることもしょっちゅう。しかしカイツブリは、あきらめることなく、すぐに巣作り再開。彼らの姿には、毎年のように感動します。

初夏には、ヒナを背に乗せて泳ぐカイツブリが見られます。ヒナはすくすく育ち、やがて親鳥の跡を追って泳ぐようになります。赤い額が目立つバンも、親子連れ。アシ原の奥でひっそり営巣していたようです。カルガモの親子連れも見られるようになりますが、子供の多くはカラスに食べられてしまうようです。この頃、森の中を飛んでいるカワセミに驚くことがあります。カワセミは、水辺に適当な場所が無ければ、水辺から少し離れたところに営巣します。そこから食べ物(魚)を獲るために、森を通過して水辺へ行くのです。

この頃は森もベビーブーム。春にさえずっていた鳥たちの子供が続々と巣立っています。巣立ち直後は親と一緒に行動して、餌をもらっていますが、そのうち独立。小さな虫を捕まえようとジタバタしている姿に、「がんばれ！」と声をかけたくくなります。この頃になって、ヒヨドリがようやく子育てを始めることもあります。暑さが厳しくなる頃、森は鳥影が少なく、聞こえるのはセミの声ばかり。体力を消耗する換羽の季節を迎えた鳥たちは、人目につかない場所に身をひそめて、疲れた体を癒しているのでしょう。(小林みどり)



桜は日本の春を感じさせる代表的な花木です。暖かい春の日、咲きそろった桜の下での野遊びは楽しいものです。泉の森にもソメイヨシノ、ヤマザクラ、オオシマザクラ、カスミザクラ、カワヅザクラなど多くの桜があり、その美しさを堪能することができます。

桜は満開のときだけでなく、花びらが散るときも見所の一つです。春の風に花吹雪が舞う様や、川面に花びらで作られた花いかだは、なんともいえない優雅な風情があります。

日本の桜の花言葉は「純潔」、「美麗」などですが、フランスの桜の花言葉は「私を忘れないで」だそうです。この花は散り際の潔さ美しさからか、美しい別れや潔い死を連想させるところがあります。戦時中、「花と散る」とは「戦いで死ぬ」ことを意味しました。「美と死」この相反するものが一つの花に象徴されているところに桜の特異性があるといえるでしょう。

平安時代から鎌倉時代初期の高名な歌人、西行法師は

「願わくは 花の下にて 春死なん そのきさらぎの もちづきのころ」と詠っています。西行は文治6年2月16日(1190年3月31日)に亡くなりました。その願いどおり如月(旧暦2月)のもちづき(満月)のころに亡くなったのです。

西行は、明るい月の光と満開の桜の下、花びら舞い散る中で死んだのでしょう。将来を囑望された武士ながら若くして出家し、詩歌の道に一生を捧げた、桜をこよなく愛した歌人に相応しい最期であったといえます。

桜はその満開の美しさだけでなく、散り際の美しさをも愛される花です。

(橋本幸夫)

なんでも休み時間⑬春の山野草園

(中田美希)

5

泉の森の国道より北側の静かな森。山野草園と呼ばれる小高い丘があります。



この中には植栽され、管理された野草が数多くあり、中には自然に出たものや貴重なものさえあります。

もちろんですが、園内での植物の採取は禁じられております。もちろん植えてもいけません。ご協力よろしく、お願いいたします。



山野草はじっくり歩いて見たり、中にはよく探さないと解らないほど小さなものもあつたりします。特に春先から夏の始めにかけてが一番活発な時です。

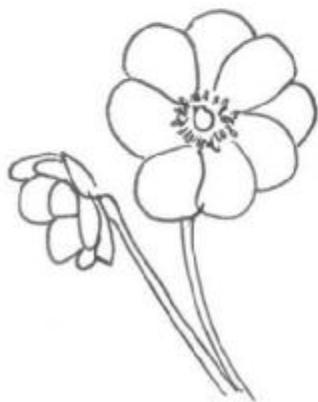


目を皿のようにして、むしろ皿にしてじっくり見ると、こんなものがあった！という驚きが見つかるかも知れません。

カタクリ



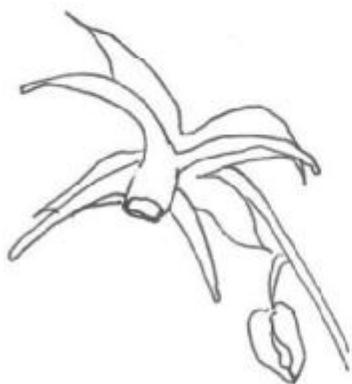
ミスミソウ



ショウジョウバカマ



イカリソウ



4)

昭和に生まれた方なら誰しもが楽しんだ経験がある、草花遊び。



お子さんに、お孫さんに、シロツメクサの冠やキシギシヤスイバの遊びを教えた方もいるのではないのでしょうか。

1)

東北では、道草に山菜を採って帰る。なんていう、贅沢なうえに誰も損しない子供の楽しみが、もの本にありました。



将来も役立つし豊かな自然が豊富な証拠で、羨ましい限り。

4)

昔はどこにも生えていたレンゲやシロツメクサ、タンポポは春の野の花遊びの主役で、またそれを教えてくれる人もたくさんいました。



なにしろ、昭和が終わる3年前に生まれ、私の世代でさえ、野の花遊びはここに盛り返り込まれていったものです。

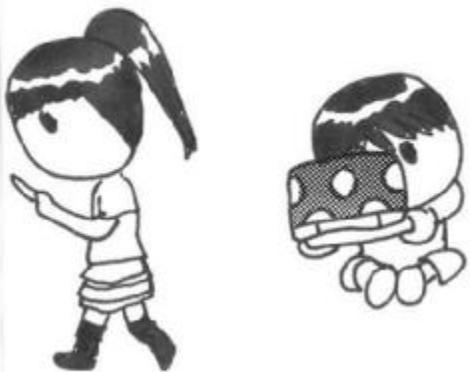
2)

くどいようですが園内での植物の採取は禁じられております。もちろん植えてもいけません。ご協力よろしく、お願いいたします。



3)

物に溢れてしまった今は、子供は外に出ても皆でゲームをしていたり、社会問題でもある「歩きスマホ(携帯端末)」をしたり。



泉の森では、子供を対象に自然遊びを教える活動も行なっています。感性豊かな子供に寛大な大人に育てるためにも、参加してみたいかがでしよう。

終